

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	里山整備活動支援事業	会計	一般会計	事業No.	441	施策順No.	52-006
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-27-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課		
施策	52 身近な自然と生活環境の改善			事業期間	開始	17	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民 集落周辺の竹林整備						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	106630	105036	105036	
	対象をどう変えるか	整備要望竹林(か所)			213	148	83	
意図	里山林整備により、荒廃した里山林の保全管理と有効活用が図られる							目標達成度  <b>B</b>
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	
意図	利用者数(人)	2960	0					
対象をどう変えるか	活用整備された竹林(か所)	1	0	60	40	37	60	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		計画的な事業実施が図れたが、事業実施箇所が急峻であることと、風雪害等により枯れた竹が伐採本数の約半分程度ある場所など事業効率の悪い作業地が多く、目標を上回れなかった。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	放置荒廃して整備の遅れた集落周辺の里山林において、地域住民等による共同作業や森林所有者自らが行う里山林整備(間伐等)を効率的に実施するための林内歩道整備等支援事業		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	市内全域の竹林で風雪害による倒竹により、通行に支障がある場所の整備を要望してもらい、市道・農道・農地周辺の通学路、地域住民の生活道路を中心に、直接雇用作業員及び業務委託で実施箇所65箇所を選定し皆伐を実施する。(実施後の維持管理については、地元及び土地所有者)	整備箇所数	37
23年度実施計画	市内全域の竹林で風雪害による倒竹により、通行に支障がある場所の整備を要望してもらい、市道・農道・農地周辺の通学路、地域住民の生活道路を中心に、直接雇用作業員及び業務委託で実施箇所65箇所を選定し皆伐を実施する。(実施後の維持管理については、地元及び土地所有者)	整備箇所数	60

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	緊急雇用創出事業(県10/10)
	国庫支出金					
	県支出金		11,337	11,335	11,336	
	起債					
	その他					
一般財源		0			0	
計(A)		11,337	11,335	11,336		
正規職員所要時間			500			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			1,788			
トータルコスト A+B			13,123			

4 事業に対する市民や議会の意見

地域や市民自らが森林(里山林)保全に関わり、活動するための支援について要望がある。特に竹林の整備に対する助成制度要望がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	水や緑が守られ増える	施策の成果指標又はムトス指標	身近な自然は守られていると感じる市民の割合 %
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	目標箇所数を決めたことで、計画的事業を進められた。		
	後期に向けた課題	H23年度が最終年度となるため、現段階では課題はない。		市内の河川の水生生物の分布数 種
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	子供たちに安心安全な登下校をしてもらうことを重点に作業箇所を決定し、目標箇所数達成以上の成果を得られるようにした。		
	後期に向けた課題	H23年度が最終年とねるため、前期と同様に事業を推進する。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	国の緊急雇用創出事業による事業であるため、初年度採用作業員とは、職員と一緒に作業を行い、作業方法、安全確認など伐採整理作業の方法を検討しながら実施した。また作業主任者には6ヶ月間の再雇用を行い、破砕機のメンテナンス方法、安全な伐採方法の一貫性を図り、安全で効率的な作業体系を確立した。		
	後期に向けた課題	前期と同様に実施するが、作業員は1名を除き初心者であるため、まず安全な作業の習得に努めてもらい、その後効率的な作業実施によるコスト削減を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	整備前の竹藪では、昼間も外灯が点灯するような場所があり、このような竹藪の所有者は高齢者が多く所有者が全てを負担することは不可能と判断できるため、積極的に市が関与する必要がある。		
	後期に向けた課題	前期と同様の事業実施を進めれことで特に問題はないと思われる。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	市内の竹藪が整備されたことで、子供達の通学路・付近住民の生活道路の安全性が確保されており、積極的に市が関与する必要がある。		
	後期に向けた課題	市内の竹藪が整備されたことで、子供達の通学路・付近住民の生活道路の安全性が確保されており、積極的に市が関与する必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	通学路を中心に整備を進め、事業実施箇所周辺住民からは大変喜ばれている。また整備後の現地確認においても良好に管理されている。		
	後期に向けた課題	H23年度が緊急雇用創出事業を活用した事業での最終年度となるため、まだまだ整備要望は多くあり、H24年度以降の方策を検討する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------